

平成30年度フェロー認定（14名）



氏名	伊関 克彦
認定時の所属	東レ株式会社
抱負	<p>先端技術を世界に先駆けて創出し、機械、電子、化学の各分野が連携し、モノ・コトに具現化していくことが科学技術立国日本が、生き残り成長していく唯一の道である。異なる科学研究、要素技術開発を担当する学協会を束ねる日本工学会の役割は、異なる基礎研究・技術開発の連携と融合を促進する観点から非常に重要であり、実際に多大な役割を果たしており、高い評価を受けてきた。しかしながら、私が会長職を経験した（公社）有機合成化学協会をはじめ化学系の学協会の日本工学会の貢献はやや不十分であるように見受けられる（理事もあまり出していない）。化学・バイオの研究を担い、先端材料とそれに関連する技術を生み出す責務がある化学系学協会の日本工学会活動への参画をより推進すべきと考える。有機合成化学協会会長を経験し、現在JSTのCREST（分子技術）アドバイザーや（一社）バイオ産業情報コンソーシアムの理事である経験を活かし、化学系学協会と日本工学会をつなぐ橋渡し役を務めたいと願う。</p>
氏名	大即 信明
認定時の所属	東京工業大学
抱負	<p>日本工学会の大きな役割として「社会のための工学の進展と社会への発信」がある。この中で、候補者が今後活動したいと考えるのは、途上国への発信である。特に、社会インフラの維持管理での日本や欧米の知見を発信したい。この分野では、すでに欧米では20世紀末より、また、わが国でもここ20年で問題が顕在化しており、すでに、幾多の道路、鉄道、港湾施設など維持管理に多大の費用を要し、最悪の場合、重要な社会インフラの遺棄も発生している。現状、途上国の社会インフラはいま急激な増加をしており、事前に種々の対策をしておけば、欧米や我が国のような多大な費用ではなく、ある程度合理的な維持管理で持続可能な社会インフラとなる可能性がある。もし、活動の機会が与えられるならば、この分野で活動を継続してゆきたいと望むものである。</p>

氏名	海保 真行
認定時の所属	株式会社日立製作所
抱負	
氏名	岸本 喜久雄
認定時の所属	東京工業大学
抱負	資源・環境の制約の下で、健康で快適な生活と安全で安心な社会を維持し発展させていくためには、科学技術に求められる役割は大きい。このような観点からの科学技術の健全な発展に今後とも微力を尽くしていきたいと考えている。また、国際開発協力は発展途上国の経済成長の面から進められることが多いが、包摂的で持続可能な社会を世界的な連携の基に構築していくためには、適切な技術開発が必要であるとともに人材育成の観点からの国際的な連携が重要と考えている。この点に関しても工学分野のコミュニティーの一員として貢献ができればと考えている。このような視点のもと日本工学会の活動が工学分野の中心学会として充実するように努めたい。
氏名	喜連川 優
認定時の所属	国立情報学研究所
抱負	日本工学会が主催した世界工学会議(2015)の日本開催時には、柘植先生のご指導を頂戴し、情報処理学会会長(当時)として応援をさせて頂くとともに、自らもセッションをデザインし参加させて頂きました。当該会議は大変有意義でした。今後も、学会会長経験者として、また、国立情報学研究所所長(現在、大学共同利用機関法人情報システム研究機構機構長)として、お役に立てますと幸いです。(令和6年8月更新)
氏名	國生 剛治
認定時の所属	中央大学
抱負	
氏名	田中 幸二
認定時の所属	株式会社 日立製作所
抱負	産学会の連携を深め工学会のより一層の発展に努めることで、未来の産業構造と社会変革をもたらす価値創造に寄与し、社会課題の解決と経済成長の両立を実現する豊かな未来社会の創造に貢献したい。
氏名	徳田 英幸
認定時の所属	国立研究開発法人 情報通信研究機構 理事長
抱負	
氏名	富田 達夫
認定時の所属	情報処理推進機構
抱負	40年以上の長きにわたり、情報処理分野において、様々な開発、事業、研究活動を行ってきた経験と、産業界での経営活動を通して得られた人脈、学会活動や人材育成の活動を通して得られたアカデミアとの関係、そしてさらに、官に近いところで独立行政法人の長として情報処理技術の普及に向けた活動を通して得られた知見と、まさに産官学の連携を推進できる経験を有しており、ぜひ、この人脈や知見を生かして、産官学の融合、そして新たなイノベーションの創出に貢献したいと考えます。(令和6年8月更新)
氏名	中島 秀之
認定時の所属	東京大学
抱負	情報処理は今後の社会を形作る上で基幹となる技術である。また近年急速に発展している人工知能技術の応用で社会は急速に変化しようとしている。然し乍らこのような認識は世の主流とは言い難い。情報技術によって新しい社会システムを作っていくなければならないということを世に訴えて行きたい。
氏名	中田 登志之
認定時の所属	東京大学
抱負	

氏名	廣瀬 壮一
認定時の所属	東京工業大学
抱負	現在(2024年8月時点)、科学技術人材育成コンソーシアム代表を務めている。科学技術人材育成は科学技術立国としての我が国にとって喫急の課題であることから、コンソーシアムにおける活動を通して人材育成に貢献させていただきたい。(令和6年8月更新)
氏名	細澤 治
認定時の所属	大成建設株式会社
抱負	我々が生活する都市は、安全・安心が保証されなければならない。それは治安上の問題であり、交通問題でもあり、また、自然の脅威に対しても安全・安心が保証されなければならない。建築そのものにおいてはスクラップ・ビルトから長寿命建築へと転換が図られており、今、建築の有り方が問われている。私はこれまでに培ってきた構造設計に関する技術を生かし、これら安心・安全・長寿命等の問題に対して積極的に関与し、新しい都市のあり方に関して研究・開発を進めたいと考えています。個人の力は微力ですが、何かしらの貢献は可能と信じています。(令和6年8月更新)
氏名	村山 優子
認定時の所属	津田塾大学
抱負	コンピュータサイエンスやインターネットは、20世紀に出現し、工学では比較的新しい研究領域です。本領域では、従来、より速く、より効率的に処理することが求められてきました。21世紀に入り、技術についての人間的な視点に着目するようになりました。例えば、「果たして、開発された技術により、人間に安心感をもたらすのだろうか」というような観点や、人の特性に基づいたセキュリティ攻撃のような研究も始められてきました。一方、2011年に発生した東日本大震災では、想定外の状況下での情報通信技術による情報収集は大変難しいことが、判明しました。災害時の様々な問題解決には、技術は、解決策のほんの一部なのです。情報通信技術はこれまで、提供者側の論理、すなわち、技術を提供すれば、人々に役立つという発想で提供されてきました。今後、私たちは、研究開発する技術で誰を救うのか、あるいは何を救うのかを意識した研究姿勢が問われるのではないのでしょうか。情報処理国際連合(IFIP)においても、防災のためのIT技術を考える委員会を立ち上げ、災害時に必要な情報処理を、被災者や被災地の観点から考えることを目指しています。国連のITU主催の世界情報社会サミット(WSIS)においても、テーマとして、例年、如何に国連の掲げる「持続可能な開発目標」に、情報通信技術が貢献できるかということが挙げられています。そろそろ、わが国の工学分野の技術者も、技術による利用者の問題解決や社会への貢献を意識する時が来ているのではないかと考えます。こうした中、日本工学会のさらなる躍進にむけて、お手伝いできればと存じます。(令和6年8月更新)